

令和二年度（2020）一学期終業式式辞

一学期を終えるにあたり、お話しします。

まず、始業式にお話ししたことを思い出してください。

一つ目は、君たちはなぜ、学ばなければならないのか？について、自分なりの答えを見つけてもらいたい。ということ。

二つ目は、一日一日の積み重ねを大切にしてほしいということ。

三つめは、自分の善さに気づき、自分を大切にすること。そして、それと同時に、他人を認め、その命も同じように大切にすること。

四つ目は、大間GP・大間グラデュエーション・ポリシーです。

自己肯定力 実行する力 考え抜く力 協働する力 郷土を愛する力

最後、五つ目は。「男らしく」「女らしく」ではなく、「人間らしく」を目指したこと。今年度から、性別によらない名簿を導入しましたね。

さて、これらのことに、皆さんそれぞれ頑張ってきましたね。特に開催が危ぶまれた文化祭の大間GP 振り返りシートにその思いが見えます。

ここで、勝手ではありますが、生徒の書いた感想を幾人か分紹介します。（振り返りシートを四～五名分紹介する）

どうですか？皆、大間GPを意識して行動していたことがわかります。私は、校長としてとても感動しています。皆さんは、しっかりと、自分事として理解し、成長できていたのですね。

さて、夏休みも同じように過ごしてもらいたいと思います。

そこで、ある書物（「日本一心を揺るがす新聞の社説」）で知った次のお話をしてしたいと思います。

宇宙飛行士になるための試験の一つに、絵のない真っ白なジグソーパズルを完成させるというものがあるそうです。

ジグソーパズルは、前もって完成した絵が分かっているので、「やってみよう」とい気にもなるし、だんだん完成に近づいていくと喜びも湧いてくるものですが、この場合、完成図がないのでやる気も起きないし、何を作っているのかも分からないので喜びも湧きません。

で、「これ、何の為にやるのですか？」と質問した人はまず宇宙飛行士の選抜から外れるのだそうです。

そして、「はい、やめてください」という合図のあと、「ここまでしかできませんでしたが、合格ですか？・不合格ですか？」と質問する人も落とされるのだそうです。

どういう人が適しているかという、時間切れで終わった後、「これ、もって帰っていいですか？ 中途半端で終わると気持ちが悪いので、持って帰って完成せたいのです」という人だそうです。

このことと同様に、今回皆さんにお話しするのは、ジグソーパズルにたとえた人生の奥深い話です。

ここに『賢者の書』（著：喜多川 泰）という本があります。この中でこんな

たとえ話をしています。この本です。

この本の中で主人公の少年サイドは、「賢者」からこのようなジグソーパズルの話を教えられます。

人間は、行動の結果、ピースを一つだけ与えられる。しかし、そこから完成図（未来の姿）はそうたやすく想像できるものではない。ところがそのうち、偶然、想像することができるピースを手に入れることがある。その時人間が思い描く将来の完成図。それが、夢なのだ。

さて、その絵を完成させるために必要なこと、それは、行動すること。その夢の実現の為に人は行動を起こす。

そして、行動の結果、その絵を完成させるのに必要なピースを与えられる。しかし、愚かな人間は、せっかく与えられたピースを必要のないものと判断して、捨ててしまったり、無視してしまったりする。

ここで、知らなければならないのは、夢の絵を完成させるために必要なピースかどうかは、その人自身が気づかなければならないということ。

つまり、行動の結果、手に入るものは失敗でも成功でもないということ。そこで、絵を完成させるために不可欠なピースの一つととらえることができるかどうか。

「一個のピース（つまり行動の結果）は、自らの思い描いた絵を完成させるためにどうしても必要なのだ。絵が完成したときに、あのわけの分からなかったピースが、どこでどう使われているのかが、ようやく分かるんだ。あのつらい経験がここに使われることになっていたんだなあ。あの失敗がなかったら、ここを埋めることができなかつたんだなあ。といった具合に」

大人でもよくあります。「こんなの意味ねえ。」「（やりもしないのに）やって何になるの？」など、皆さんには、そんな大人に絶対にならないでほしいと思っています。

今のお話に興味を持った生徒は、校長室にこの本がありますので、ぜひこの機会に手にして読んでみてくださいね。

この夏休みは二度と戻らない大切な夏休みです。そして、この経験もまた皆さんにとって、大切な人生のピースとなるものです。

（このお話は、本日、なかなか学校に来ることができない生徒に向けても話しているつもりです。是非、皆さんから伝えてほしいと思います。）

校長室は、古代ギリシアのスクーレであり、ポリスの中心、アゴラです。夏休み中に限らず、いつでも遊びに来てそのピースのお話をしましょう。

二学期。お互いに、一層魅力的な人になって会うことを楽しみにしています。

令和2年7月30日

青森県立大間高等学校

校長 森田 勝博